

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：令和2年2月29日（土） 14時00分～15時30分

2. 開催場所：florist NØGLE(ノイル) 鹿児島市西谷山3丁目1-3

3. 関係団体等：鹿児島国際大学後援

4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学 准教授・日本学術会議 連携会員）

ゲスト：大西智和（鹿児島国際大学 国際文化学部 教授）

5. 概要：

今回のサイエンスカフェは「土器に残った米つぶから古代人の生活が見える 考古学の最前線」というテーマで行われた。

最初に、ゲストから発掘調査の方法が紹介された。最も基本的な、土を掘り、出土物を水にさらし、浮遊物を集め、そこから古代人の食につながる手掛かりを探すという方法である。その後、土器に種子が残って生じた穴（圧痕）にシリコン樹脂を流し込み、その穴の型を取り、電子顕微鏡で観察する方法などに話が広がった。また、稲作が甬島で行われていたことをどう考えるか、などゲストの今現在の研究課題についても参加者に問題提起され、様々な可能性やとらえ方が紹介された。

地元の博物館等に行き、考古学に興味を持っている小学2年生の参加者から、「古代の人たちは米ぬかがついたままで（精米せずに）お米を食べていたのか」という質問が寄せられたり、仕事で土木に関わっている参加者から、工事現場で遺跡が発掘されたときの話題が出たりと、参加者からも興味深い質問や話題が次から次へと寄せられた。

インテリア雑貨も扱う花屋という空間で、60代から小学生まで、幅広い年代にわたる多様な参加者を迎えたサイエンスカフェとなった。

6. 参加人数：

講演者等：4名

その他の参加者：6名

7. 特記事項：

会場となった「florist NØGLE」には、サイエンスカフェの趣旨に賛同いただき、参加者に1ドリンク以上の注文をお願いすることで会場を無償で提供いただいたほか、常連客へのイベントの告知にも協力いただいた。



当日の様子